

トビウオ通信 (3月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

〈平成 16 年の島根県漁業の動向〉

今月は水産試験場の漁獲管理情報処理システム(TACシステム)により集計した県下主要 13 漁協の漁獲統計資料(属人)から、平成 16 年(1~12月)の島根県漁業(海面、漁船漁業)の動向を取りまとめました。漁業種類にもよりますが、島根県の属人統計(農林統計)の約 85%が集計対象となっています。

全体 … マアジ豊漁で漁獲量・生産額ともに過去3年を上回る

平成 16 年の総漁獲量は約 10 万 4 千トン、総生産額は約 188 億円で、例年のように漁獲量ではまき網が多くを占めますが、生産額では小型底びき網 1 種、沖合底びき網、定置網なども大きな割合を占めています(図 1, 2)。島根県の漁獲量は平成 11 年から平成 13 年にかけてはカタクチイワシの減少のため大きく減少しましたが、平成 14 年以降は増加に転じ、平成 16 年は 4 年連続の増加となりました(図 3)。生産額も平成 11 年以降減少あるいは横這いでしたが、平成 16 年は増加に転じました(図 4)。漁獲量・金額の増加の最も大きな要因は、漁獲物中で大きな割合を占めるマアジの漁獲量が平年(過去 5 年)比 168%、前年比 166%と大幅に増加したことです。その他、ブリも前年ほどではありませんが平年比 129%と好調でした。サバ類、

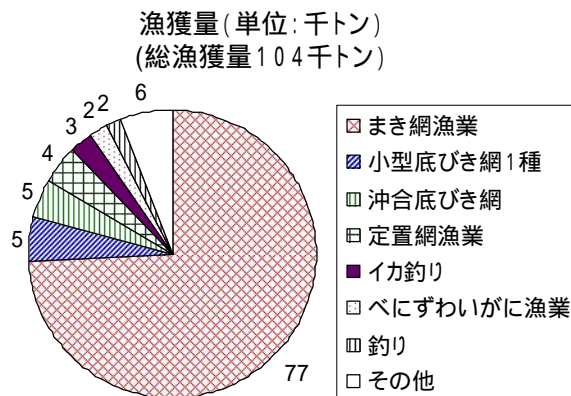


図1 平成 16 年の島根県の漁業種類別漁獲量

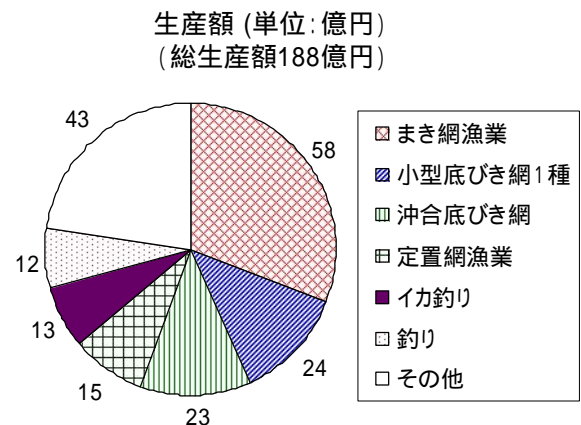


図2 平成 16 年の島根県の漁業種類別生産額

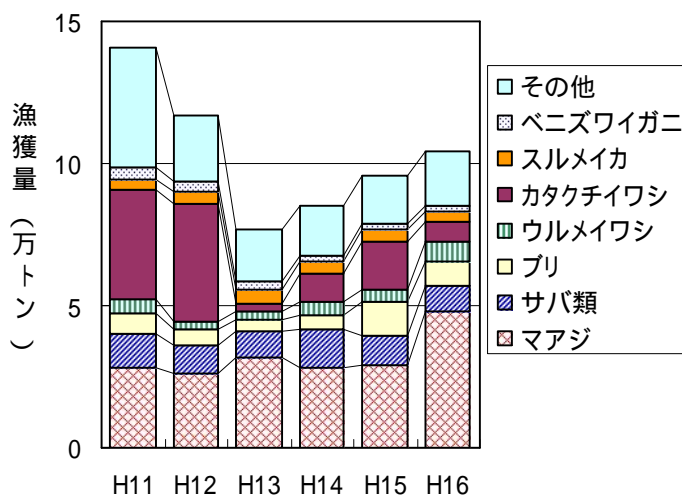


図3 島根県の魚種別漁獲量の推移

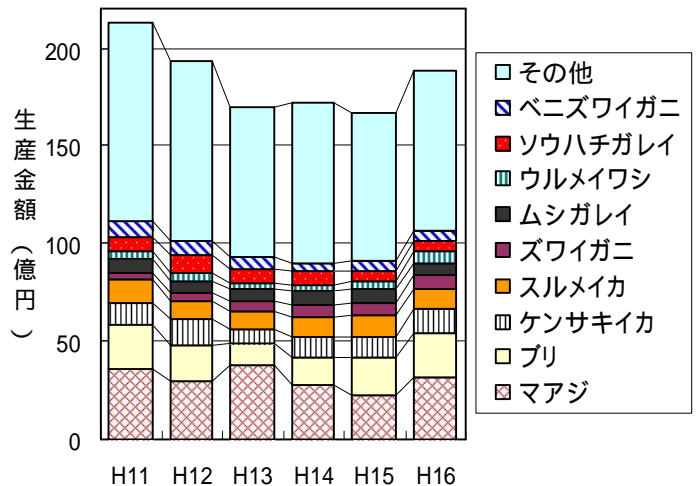


図4 島根県の魚種別生産額の推移

カタクチイワシは減少、ウルメイワシが増加しています。

中型まき網漁業 …マアジ・ブリ好調で増

まき網漁業の中核をなす中型まき網漁業は、マアジ・ブリが好調のため漁獲量は3年連続増となり、生産額も前年比114%と増えています。(中型まき網についてはトビウオ通信2月号で詳しく報告していますのでそちらをご覧ください。)

小型底びき網1種漁業 (図5) …漁獲量3年連続増

小型底びき網1種漁業(かけまわし)の漁獲量は平成14年以降増加傾向にあります。平成16年は前年のようなエチゼンクラゲの被害がなかったこともあり、漁獲量・生産額ともに前年を上回りました(前年比で漁獲量123%・生産額116%)。主要魚種ではニギス、キダイ、アンコウ、ムシガレイ、アカムツなどの漁獲が増加していますが、金額的に最重要魚種であるソウハチは減少傾向(平年比60%)にあります。

沖合底びき網漁業 (図6) …減船の影響で漁獲減

沖合底びき網は平成16年に2ヶ統が減船した影響が大きく、総漁獲量・生産額共に前年を下回りました(前年比で漁獲量95%・生産額94%)。ただし、1ヶ統あたり漁獲量では前年より増加しています。魚種別ではムシガレイ、ヤナギムシガレイ、アカガレイといったカレイ類は減少傾向にあります。一方でキダイ(平年比160%)やイボダイ(平年比400%)、アンコウ(平年比116%)の増加が目立ちます。

定置網漁業 (図7) …2年連続漁獲量・金額共に増

定置網は漁獲量・生産額共に2年連続の増となりました。魚種別では特にマアジが前年比220%(平年比260%)と豊漁だったことが大きく、スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカなどのイカ類の漁獲量も前年を上回りました。また、サワラ類(平年比177%)、カワハギ類(平年比205%)なども増加しています。

各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産試験場ホームページをご覧ください。(<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>)

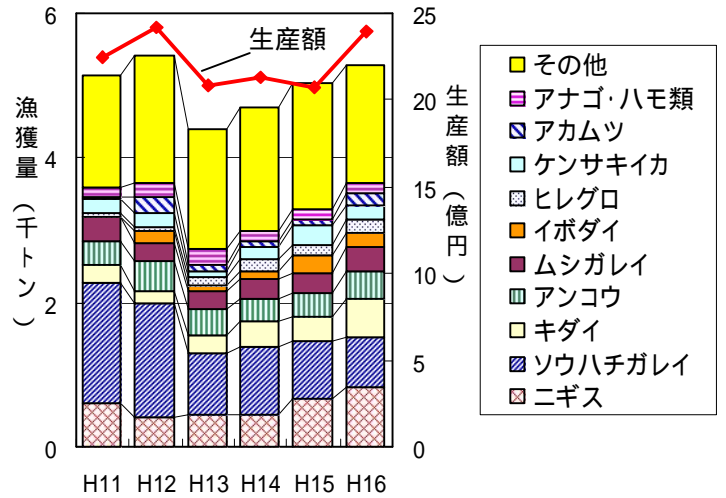


図5 小型底びき網1種の魚種別漁獲量と総生産額

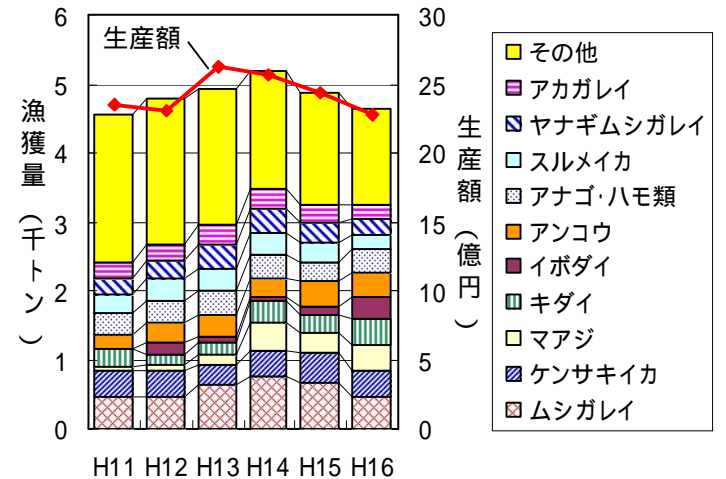


図6 沖合底びき網の魚種別漁獲量と総生産額

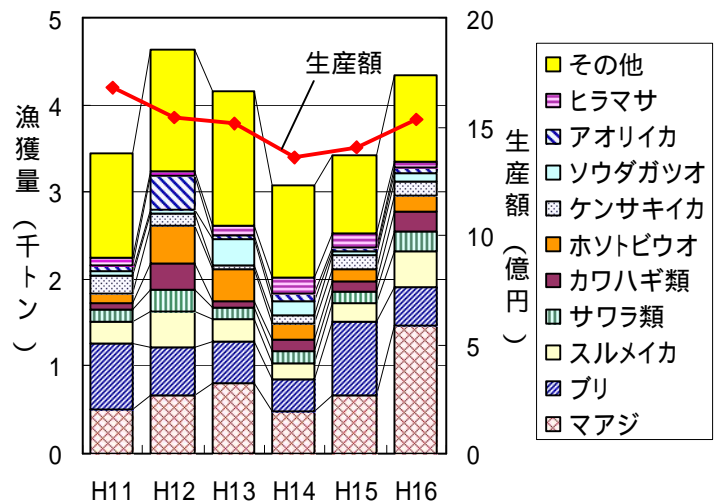
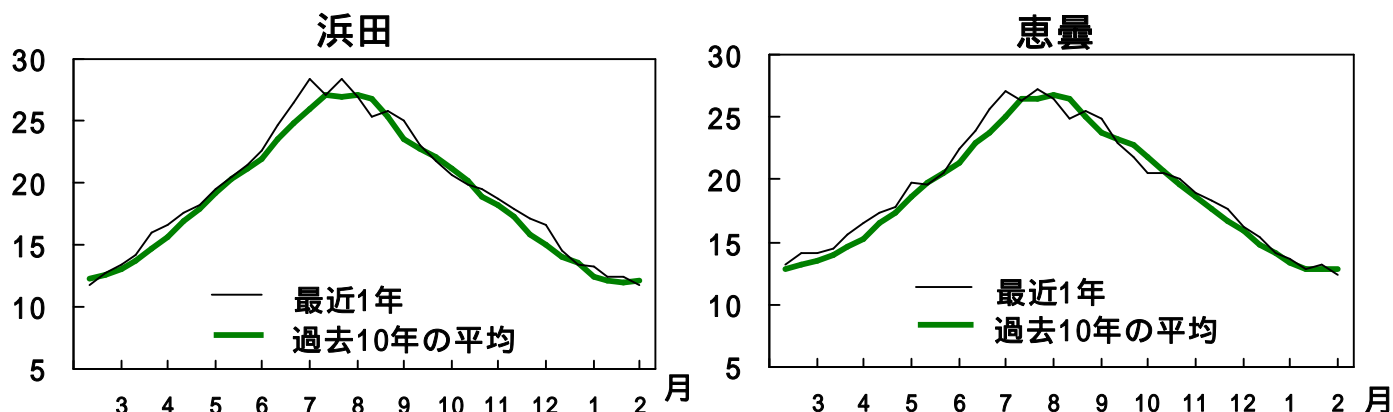


図7 定置網の魚種別漁獲量と総生産額

《 2月の海況 》

| 2月 | 月平均 | 平年差 | 評価 |
|----|------|------|------|
| 浜田 | 12.2 | +0.1 | 平年並み |
| 恵曇 | 12.8 | ±0 | 平年並み |

2月の月平均水温は1月に比べ浜田で1.5、恵曇で1.6 下降しました。浜田、恵曇ともに「平年並み」となりました。



島根・鳥取・山口の各県水産試験場が実施した海洋観測結果(3/1~3/8)によると、山陰海域の各層の水温は、表層(0m)が8.5~14.0(平年差は-2.8~+1.4)、中層(50m)が7.9~14.0(平年差は-3.4~+1.4)、底層(100m)が3.3~13.8(平年差は-5.7~+1.8)となっていました。沿岸域では各層とも13~14台の水温で、昨年同時期とほぼ同じでした。底層では、隠岐諸島西方約80マイル付近と隠岐諸島北西約50マイル付近に冷水域の中心が見られ、中心付近では平年より低めとなりました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「はなはだ低め~かなり高め」、中層では「はなはだ低め~かなり高め」、底層では「はなはだ低め~かなり高め」となっています。

《 2月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に304トン、総水揚金額は1,295万円でした。1統当りの漁獲量は101トンで、平年(過去5年平均)の50%、前年の113%でした。水揚金額は432万円で、平年の32%、前年の64%でした。西郷では、マアジ、サバ類主体に総漁獲量1,760トン、総水揚金額は1億1,804万円でした。1統当りの漁獲量は293トンで、平年の75%、前年の65%となりました。水揚金額はウルメイワシの漁獲量が前年を大きく上回ったため1,967万円と、平年の107%、前年の118%となりました。浦郷ではウルメイワシ、マアジ主体で、総漁獲量489トン、総水揚金額は3,948万円でした。1統当りの漁獲量は122トンで、平年の53%、前年の55%となりました。水揚金額は987万円で平年の83%、前年の77%となりました。県全体でマアジの漁獲が好調で平年の161%となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ中心に569トンで、平年(過去5年平均)の303%、前年の815%と好調に推移しました。これはスルメイカ漁場が山口県の見島沖から島根県沖合海域に形成されたためで、過去5年間で最高の水揚となりました。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はスルメイカ主体の24.5トン(平年の77%、前年の53%)となりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではケンサキイカ、スルメイカ、キダイが漁獲の中心でした。1統当り漁獲量では前年を4%下回りましたが、水揚金額では24%上回りました。平年(過去10年平均)に対しては7%(量)、21%(金額)上回りました。ケンサキイカは前年を42%、スルメイカは55%、キダイは47%それぞれ漁獲量で前年を上回っています。

一方、カレイ類は低調な漁獲となりました。前年に対してはムシガレイで32%、ソウハチで21%上回りましたが、平年に対してはそれぞれ72%（ムシガレイ）、28%（ソウハチ）に留まりました。

恵曇港ではアカガレイが漁獲の中心でした。1統当り漁獲量では前年の93%、水揚金額で90%に留まりました。平年に対しても97%（量）、85%（金額）に留まりました。アカガレイは前年の94%の漁獲量に留まりました。

【小型底びき網漁業】

大田市・和江漁協ともに、前年と比較して漁獲量で12～33%、水揚金額は15～33%上回りました。大田市漁協の主な漁獲物はニギス、ソウハチ、ヒレグロでした。ニギスでは前年同月の漁獲量を79%、ヒレグロは67%上回りましたが、ソウハチはほぼ前年並み（99%）でした。和江漁協ではソウハチ、ヒレグロが主に漁獲されました。ソウハチは前年同月の漁獲量を14%下回りましたが、ヒレグロは2.2倍の漁獲がありました。その他の魚種では、ハタハタが（大田市12トン、和江20トン）まとまって漁獲されています。

【定置網漁業】

県東部では漁獲量は前年および平年を下回りましたが、水揚金額は前年および平年並みとなっています。隠岐では漁獲量、水揚金額ともに前年および平年を下回っています。県東部ではスルメイカ、マアジが主体ですが、両魚種とも前年の5割程度の漁獲量となっています。その他ではヤリイカ、サンマなどが漁獲されています。隠岐ではスルメイカ、ヤリイカが主体ですが、スルメイカは前年の10%以下の漁獲量となっています。その他ではマアジなどが漁獲されています。県西部は定置網による漁獲はほとんどありませんでした。

【釣・縄】

県東部と隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回っています。県西部では漁獲量は前年を下回りましたが、平年を上回っています。水揚金額は前年および平年を下回りました。県東部ではブリ、ヤリイカが主体で、ブリは前年の約4倍の漁獲量となっています。その他ではメダイなどが漁獲されています。県西部ではメダイが主体ですが、前年の5割程度の漁獲量となっています。その他ではブリ、スルメイカなどが漁獲されており、スルメイカは前年の漁獲量を大きく上回りました。隠岐でもメダイ、スルメイカが主体となっていますが、メダイは前年の5割程度の漁獲量となっています。

漁獲統計

平成17年2月1日～28日

| 漁業種類 | 水揚港 | 延隻数・統数 | 主要魚種 | 1隻(統)1航海当漁獲量 | 総漁獲量 |
|-----------------|-----|--------|--------------------|--------------|--------|
| 中型まき網 | 浜田 | 18 | マアジ・サバ類 | 16.9ト | 304ト |
| | 西郷 | | マアジ・サバ類 | ト | 1,760ト |
| | 浦郷 | 22 | ウルメイワシ・マアジ | 22.2ト | 489ト |
| イカ釣り (5トン以上) | 浜田 | 478 | スルメイカ | 1,190kg | 569ト |
| | 西郷 | | スルメイカ | kg | 24.5ト |
| 沖底 | 浜田 | 29 | ケンサキイカ・スルメイカ | 12.5ト | 364ト |
| | 恵曇 | 18 | アカガレイ | Xト | Xト |
| 小底 | 大田市 | 214 | ニギス・ソウハチ・ヒレグロ | 769kg | 165ト |
| | 和江 | 321 | ソウハチ・ヒレグロ | 715kg | 229ト |
| 定置網 | 浜田 | 9 | ヤリイカ、マアジ、タチウオ | 110.1kg | 1.0ト |
| | 美保関 | 89 | マアジ、スルメイカ、スズキ | 253.9kg | 22.6ト |
| | 浦郷 | 109 | スルメイカ、ヤリイカ、マアジ | 116.9kg | 12.7ト |
| 釣・縄 | 浜田 | 635 | メダイ、スルメイカ、ブリ | 33.5kg | 21.3ト |
| | 五十猛 | 245 | メダイ、スルメイカ、カサゴ・メバル類 | 47.1kg | 11.5ト |

：1隻（統）1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

：西郷のまき網、イカ釣りの延隻数は今回の発行時点で集計できませんでした。

：個人情報保護のため非公開